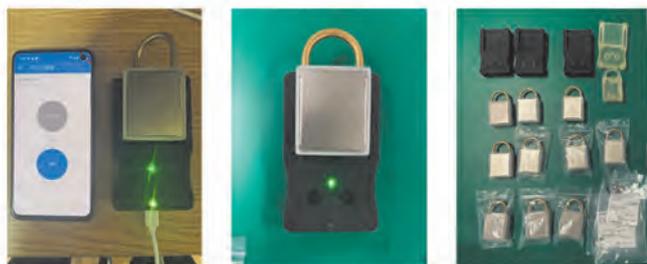


Brand Maker Enabler
モノ・コト・ヒトをつくる

電力消費1/1440
電池、充電不要の電池レス電子錠



第137回 かわさき起業家オーディション
「かわさきビジネス・アイデアシーズ賞」受賞

電力消費1 / 1440 電池、充電不要の電池レス電子錠



Brand Maker Enabler
株式会社

代表取締役
岩 渕 哲 也

今回、電子錠をテーマに参加させていただいたため、当社を鍵メーカーだと思われた方がいるかもしれませんが、実は鍵のメーカーではありません。電子錠は、当社が目指す世界を実現するためのプロジェクトの一つです。私は、かつての日本を「ものづくり大国」に押し上げてきた製造業を立て直し、世界で勝負できるブランドメーカーを世に送り出すためにこの会社を立ち上げました。

数年前までWebの開発会社でエンジニアをしていた私は、ものづくりや製造業とは無縁の毎日を送っていました。しかし、縁あってものづくりのお仕事をさせていただいたことを機に、人生が一変します。製品の企画や製造、組み込みソフトのコーディング、機構、電気回路の部品選定、設計などものづくりの現場にかかわらせていただき、その面白さに夢中になりました。それまでWebの世界しか知らなかった私は「製造業は今でも日本の産業界における重要なキーファクターである」ことを改めて実感しました。

ただ今の日本の製造業はさまざまな課題を抱えており、ものづくりの力が弱まってしまっています。こうした状況を打破し、再び世界のものづくりをリードする存在に生まれ変わらせていくことが私たちの目標です。

■受賞したビジネスに至った経緯

当社は、さまざまな製品のシーズ（種）となるアイデアを見つけ、製造業の方々とともにその種を育てていくことを目指しています。今回「充電不要の電池レス電子錠」というアイデアの種に行きついたのは、ある物流会社からの相談がきっかけでした。

その会社では、鍵付きのセキュリティバッグの運搬を請け負っていました。毎日、何百個・何千個と運ぶバッグのすべてに南京錠が付いているため、同じ数の「鍵」も管理しなければなりません。いざ解錠するときは、大量の鍵束からそれぞれの南京錠に合う鍵を選ぶという、気の遠くなるような作業をしていたそうです。そのため電子錠への切り替えを検討していました。電子錠なら、一つの鍵で複数の南京錠を開けられるよう設定できるからです。ただ、そこでネックになったのは電源です。電子錠には電池や充電が欠かせませんが、何百個・何千個もある南京錠の電池を入れ替えたり、充電したりといった作業は手間がかかります。またバッグは毎日移動させるものなので、いつでも電池切れになるかも分かりません。そこで「電池や充電がいらない電子錠をつくったらいいのでは」という案が生まれ、今回のアイデアにたどり着きました。

■サービスの特徴

電子錠には、一般的に浸透している物理錠にはないメリットがあります。まず鍵穴がないので、ピッキングされる心配がありません。鍵のスペアを作る必要がなく、解錠のログや記録を取って確認・管理することもできます。しかし電池や充電が必要で、電源のない場所では使いづらいというデメリットもあります。その点、私たちの「電池レス電子錠」は解錠時のみ電子錠から送電される仕組みになっているので、電池や充電が必要ありません。そのため、電力の確保ができない場所でも使えることが大きな特徴です。

電池レスになることで、電子錠のニーズは飛躍的に広がっていくことが見込まれます。そうなれば、鍵を取り巻く世界も変わっていくでしょう。これまでは「錠前が増えれば、そこに付随する鍵も増える」というのが常識でした。ところが電子錠の世界では、住居、自動車、ロッカー、金庫といったすべての錠前を、一つの鍵で施錠・解錠することができます。さらに、それぞれの業界で独自に製造されていた鍵が一つにまとまることで、複数の分野にまたがる新たな鍵市場をつくりあげていくことも可能です。

■現状の課題

まずは一般向けではなく、法人に向けたBtoBの製品として展開していくことを想定しています。物流やセキュリティなど、電子錠に需要のある業界に取り入れてもらうことを視野に入れ、取引先を開拓しています。また取引先企業のニーズに合わせて、開発中の試作とは機能や形状が変わる可能性もあります。そのあたりをどうやって作り込んでいくかも、今後の課題になってきます。一方で、当社は自社で生産工場を持たないファブレス企業です。先述のように日本の中小の製造業の方々と組み、新たな製品を生み出していくことを目的としていますので、この電子錠もアイデアを育て、ともに製品化、事業化に取り組んでくれるパートナーを見つけることも今後の目標です。

組織としての課題は、製品設計やソフトウェアの開

発など、手を動かす部分のリソースが不足してきていることです。現状、私が設計開発を行いつつ、経営にかかわる部分や営業、PR活動も担っていますが、今のままでは手が回らなくなることが予想されます。そのため自社の人材を増やすことはもちろん、パートナー企業を開拓することで、リソースを増やしていきたいと考えています。

■今後の展開

製品化したい題材やアイデアはまだいくつもあるので、今回の「電池レス電子錠」を皮切りに、製造業のみなさんと提携し、アイデアをブラッシュアップしながら製品化を目指す流れをつくっていくことが目標です。さまざまな製品を世に送り出してきた製造業のみなさんと一緒に取り組むことで、私たちだけでは生み出せない新しい製品ができあがっていくことに期待しています。

これまでの日本の製造業は大手企業がリードしてきました。ですが、時代は変わりました。これからの製造業には、規模に関係なく自らアイデアの種を見つけ、製品化できる強いメーカーの存在が必要です。そのために私たちは、さまざまな角度から製造業を支援していきます。そこに付随して、部品を安価で供給できるような仕組みをつくることも検討中です。例えば、ものづくりにはさまざまな部品が必要になりますが、少ロットでの購入は高いコストがかかります。そこで当社が部品をまとめて購入し安価で提供できれば、初期の試作も安くつくることができます。今後は、そのような商社のような役割も担っていきたいと考えています。

日本は、縄文時代からものづくりの技術を発展させてきた国です。「壊れず長く使えるものを提供したい」という観点からものづくりをし、ユーザーの手に渡った後の保守やメンテナンスまでも大切にしている国は、世界でも類を見ません。サステナブルな社会やカーボンニュートラルの実現が叫ばれるずっと前から、限りある資源を大切にしたものづくりをしてきた日本の強みを、今こそ発揮するチャンスです。日本のものづくりが再び世界をリードする日が来るように、製造業のみなさんと力を合わせていきたいと思っています。

■エントリーを検討中の方へ一言

公の場で自分たちのビジネスについてお話するのは、ほぼ初めての経験だったので、とても緊張しましたが、原点に立ち戻って事業を見直す良いきっかけになりました。私は「動かないと経験できない」ということを、よくまわりに言っています。実際に行動しなければ気づけないことがあるし、たとえ失敗したとしても、動いたことで得た経験は必ず次のステップにつながります。私の場合、オーディションに参加したことで財団のみなさんから手厚いサポートをいただけるようになり、横のつながりも生まれました。そういった意味でも、経験する価値のあるオーディションだと感じています。

会社名：Brand Maker Enabler株式会社

住所：〒144-0041

東京都大田区羽田空港一丁目1番4号

HICityZoneK201号室

電話番号：☎03-4500-2183

ホームページ：<https://bme.work/>